

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針1	県内の中核機関としての役割・機能の発揮	1-1 平日夜間と休日における精神科救急医療システムのブロックの輪番病院及び輪番の後方支援基幹病院（優先病院、補完病院）としての役割を担っていく。 【重点項目】	・尾張Aブロックの当番病院として月1日、後方支援基幹病院（優先病院）として月6～7日担当する。また、当番病院・後方支援基幹病院（優先病院）が満床時に受入れる後方支援基幹病院（補完病院）としての機能を他の病院（県内10病院）とともに担う。	・尾張Aブロックの当番病院として月1日、後方支援基幹病院（優先病院）として月6～7日担当している。また、当番病院・後方支援基幹病院（優先病院）が満床時に受入れる後方支援基幹病院（補完病院）としての機能を他の病院（県内10病院）とともに担っている。 （4～1月受け入れ患者数71人(当番20人、優先43人、補完8人)（2022年度30人/年間））	引続き尾張Aブロックの当番病院、後方支援基幹病院（優先病院）及び（補完病院）として精神科救急医療システムの役割を担っていく。 特に、当番病院が対応できない場合の優先病院として、また、優先病院も対応できない場合の補完病院として精神科救急医療システム全体を支えていく。
		1-2 医療観察法の入院について、標準入院期間内(18か月)のできるだけ短期の退院になるように、多職種でのチーム医療を充実していく。	・プライマリーナースを中心に医師の他、作業療法士、ケースワーカー臨床心理士のチームで患者とかかわるとともに、多職種による会議で対応方針を決定していく。こういった取り組みのもと、事業所等との連携を含め短期の退院につなげる。	プライマリーナースを中心に医師の他、作業療法士、ケースワーカー臨床心理士のチームで患者とかかわるとともに、多職種による会議で対応方針を決定するなど、多職種でのチーム医療を充実して早期の退院につなげるように努めた。 令和5年度に退院した3人の平均入院期間は、1,369日と全国平均と比べて長期間の入院であったが、患者ごとの適切な入院期間であった。 （退院者3人の平均入院期間1,369日、(2022年度退院者3人759日)） ※全国平均1,214日（2020.7～2023.6）	引続き、チーム医療を充実して早期の退院につなげるように努める。
		1-3 行政機関との連携は、当院からもアプローチを行い、困難事例の検討や意見交換会を開催するなどして、更なる連携の強化に努めていく。	・児童相談所全てにアンケートを実施し、当センターへの要望を確認し、その内容を基に事例検討会を開催する。 ・千種警察署と連携を図り、24条通報の適切な運用について確認をしていく。	・愛知県、名古屋市の児童相談所へアンケートを実施するとともに「精神科医療と児童福祉の連携会」を開催（2月7日）した。愛知県19人、名古屋市18人の参加 ・県警察本部を含め、愛知県、名古屋市の担当部門を交えて連絡会議（1月19日）を開催した。	引続き、児童相談所や警察と定期的な連絡会議を実施し、具体的な連携内容を協議することにより児童の一時保護や、措置入院患者等の対応を充実していく。

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
	1-4	各種鑑定等を更に引き受けて、裁判所等に積極的に協力していく。	・各種鑑定等を引き受けることができる精神保健判定医を育成し増やす。 (1名増、7名→8名)	必要な経験を有する医師に精神保健判定医等養成研修を受講させるなど、精神保健判定医の育成に努めた。 (7名→8名、1名増見込み)	引続き、精神保健判定医の育成し、各種鑑定等、裁判所等に積極的に協力を続ける。 (1名増、8名→9名)

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
	1-5	今後は、更にケア会議・カンファレンスを質・量ともに充実させ、また各種機関・団体との定期的な会合への参加等を通じて強固な支援ネットワークを構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポーター交流会、各家族会との交流の充実を図る。 ケア会議・カンファレンスの実施件数を増やすとともに、患者が参加する会議を増やすことにより会議の質を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポーター交流会を2回開催するとともに、各家族会の交流を図る機会を随時実施した。 ケア会議・カンファレンスの実施1,487回(12月末時点)と昨年度(2022年度1,626回/年間)を上回るペースで開催している。 	引続き、ピアサポーター交流会、各家族会との交流、ケア会議、カンファレンスの充実を図り、強固な支援ネットワークを構築していく。
	1-6	初期研修での研修医の受入れ等も含め、他の医療機関の身体科との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、協力型臨床研修病院として研修医を受け入れる。 	研修医の引受件数(21人(2022年度26人))	引続き、協力型臨床研修病院として研修医を受け入れる。
	1-7	県DPAT研修や訓練への協力(講師派遣等)、関係機関での講演やマスコミを通じたの広報活動や講演活動等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 県との共同訓練の実施(第3四半期) 講演活動を随時実施 訓練、講演の機会をマスコミに情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知DPAT訓練(11月14日)、愛知DPAT研修講師派遣(12月9、10日) 訓練、講師派遣の都度マスコミに情報提供を行った。 能登半島地震に際してDPAT隊として4隊出動(2月21月現在)NHKを始めとしたテレビ、新聞に取り上げられた。 	引続き、県との共同訓練、講演活動を実施するとともに、マスコミにもその活動を情報提供する。
	1-8	災害時に備え、地下水システムの導入など、給水源の二重化を図ることを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地下水システムの導入の必要性を検討していく。 名古屋市の「災害拠点病院等への運搬給水をはじめとする応急給水関連業務」を確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県保健医療局こころの健康推進室を通して名古屋市と協議した結果、「災害拠点病院等への運搬給水をはじめとする応急給水関連業務」に精神科災害拠点病院である当センターも含まれることとなった。 地下水システムの導入の必要性を検討し、名古屋市からの応急給水による供給量を確認したうえで再検討することとなった。 	名古屋市からの応急給水による供給量を見据えたBCPの作成により、地下水システムの導入の必要性を検討する。
基本方針2	2-1	児童青年期について、関係機関等との連携を強化するとともに専門医療の人材育成に努め、患者の受入れを積極的に進める。 【重点項目】	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所との連携を強化する。(上記3項目目と同じ) 現状2名の専門医で担当するが、新たに1名の院内医師を専門医として育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所との連携強化を図った。(上記3項目目と同じ) 院内の医師を専門医の元で該当患者の診察をさせるなど、専門医となるように育成している。 	引続き、児童相談所との連携を強化するとともに、院内で育成した医師に「子どものこころ専門医」の資格を取得させる。
	2-2	成人発達障害専門外来については、より多くの患者を診療できる人員体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 現状1名の専門医で担当するが、新たに1名の院内医師を専門医として育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 院内の医師を専門医の元で該当患者の診察をさせるなど、専門性を身に着けるように育成している。 	臨床心理士を含め多人数で対応できる体制を構築していく。

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
	2-3	新型コロナウイルス感染症の収束後、mECT、クロザピン治療について、専用の保護室や受入窓口を設けるなどして、他の医療機関からの依頼を円滑に受け入れる体制づくりを進めるとともに、治療が困難な医療機関に対して、先進的な医療を実施していることを積極的に周知していく。	<ul style="list-style-type: none"> 東2病棟の保護室をmECT治療用として活用する。 クロザピン治療については、西2、3病棟での受け入れを推進する。 精神科の単科病院へのアンケート実施に合わせ当センターの先進的な医療を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東2病棟の保護室をmECT治療用として活用した。(1月末現在、mECT延患者431人(2022年度481人/年間)) クロザピン治療については、西2、3病棟での受け入れを推進した。(1月末現在、新規開始者10人(2022年度6人/年間)) クリニックへのアンケート実施や、説明会に合わせ当センターの先進的な医療を周知した。(精神科単科病院へのアンケート実施は引き続き検討) 	引続き、mECT、クロザピン治療の受け入れを進めていく。また、先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、精神科単科病院へのアンケートの効果的な実施方法を検討する。
	2-4	ACTについて、他施設等へ普及啓発に努めながら、24時間365日の受入体制の実現に向けて弾力的な人員配置を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 他施設職員等を対象として勉強会を開催するとともに、マスコミを通して情報発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会を開催することができなかったが、各施設の訪問看護の質的な向上に寄与するため、自立支援協議会の交流会等の機会をとらえACTを紹介した。 5月29日テレビ愛知にて「精神科医療の理想と現実」としてACTを中心に取り上げて放送された。 	愛知県内の精神病患者に対する訪問看護の質が向上するように、ACTの活動を他施設に紹介していく。
	2-5	多職種でのチーム医療を引き続き実践するとともに、強度な行動障害を持つ発達障害患者に対応するスタッフの人材育成や行動療法の工夫を行い、オープンダイアローグ的な治療(対話を中心とする治療)なども取り入れていく。	<ul style="list-style-type: none"> プライマリーナースを中心に医師の他、作業療法士、ケースワーカー臨床心理士のチームでの医療により、高度行動障害を持つ発達障害患者への対応を進める。 外部の行動障害を専門とするヘルパーからノウハウを獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療を実践して、対応力を高めている。 患者の買い物や散歩をサポートするため、週一程度来院する行動障害を専門とするヘルパーと行動を共にして、その対応状況から、ノウハウを獲得するように努めている。 	引続き、チーム医療の実践や、専門家からのノウハウ獲得を通して、強度な高度障害を持つ発達障害患者に対する対応力を高めていく。
	2-6	アルコール依存症については、家族相談、教育入院、外来集団精神療法、家族を対象としたショートケア等を行い、多職種での効果的な取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 家族相談の実施 教育入院の実施 外来集団精神療法の実施 家族教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 家族相談を月に2回実施した。 アルコール依存症での入院患者に対する教育を実施した。 家族教室を5セット(7回1セット)実施した。 外来集団精神療法については、医師の不足により体制が整わなかったため実施できなかった。 	引続き、家族相談、教育入院及び家族教室を実施していく。また、外来集団精神療法の実施を検討する。

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針3 る県内材の医療や研究の中心となる	3-1	名古屋大学のみでなく他大学からの専攻医の受入れも行う。 【重点項目】	・令和6年度から他大学からの専攻医を受け入れるよう調整するとともに、引き続き幅広くアプローチを続ける。	・令和6年度から他大学からの専攻医を1名受入れることとなった。 ・その他の大学へも引き続きアプローチを続けた。	実績のある大学からの専攻医の受け入れを継続、推進するとともに、その他の大学とも新たな関係性を築いていく。
	3-2	認定看護師等の資格取得に向けた環境整備を図る。	・引き続き認定看護師等の資格取得にかかる費用等の負担するとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行う。	・引き続き認定看護師等の資格取得にかかる費用等を負担するとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行った。 ・新規取得者1人(精神科認定看護師)	引き続き認定看護師等の資格取得にかかる費用等を負担するとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行う。
基本方針4 取組の見える化	4-1	ホームページの更なる充実及び最新情報を掲載することにより、より積極的に情報発信し、更に有効な情報発信の手段について検討する。	・ホームページの内容の充実を図る。 ・Twitterの開設と定期的な投稿を行う。	事業庁の協力を得て「歴史(過去)・現在・未来の展望」のホームページ、動画を作成するとともに、X(旧Twitter)を開設し定期的な投稿を行った。(投稿回数249回、フォロワー数120人)(2/7現在)	引き続きホームページの内容の充実を図るための検討を行う。 また、Xの定期的な投稿を続ける。
	4-2	公開講座のオンライン配信など、Web媒体を活用した情報発信を行うとともに、広報誌も充実させ、知名度を向上させる。	・公開講座のオンライン配信の実施(年4回実施)	・公開講座のオンライン配信の実施(年4回実施) ・文化祭(11月3日開催)の活動動画を作成し配信した。	引き続き、公開講座、文化祭等の行事の動画配信をYouTubeチャンネルで行うなど広報活動に努める。

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
	4-3	<p>マスメディアを活用し、当院の情報を適宜伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアとの連携 中日新聞等の新聞社 TBS等のテレビ局 	<p>過去に当センターに関係のあった記者等に情報提供するなどの情報発信を行った。また、取材の問い合わせには、可能な限り応じた。</p> <p>取り上げられた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/2 テレビ愛知「5時スタ」 テーマ：「精神科医療の理想と現実」 12/21 中京テレビ「キャッチ」 テーマ：「若者のオーバードーズ」 能登半島地震関係 1/9 中京テレビ「キャッチ」 1/9 NHK「まるっと」 1/26 テレビ愛知「5時スタ」 2/2 中日新聞 取材継続中 中京テレビで「成人発達障害」 TBSテレビ「児童精神科病棟」 	<p>引続き、マスメディアを活用し、当院の情報を適宜伝える。</p>

病院名：精神医療センター

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
	4-4	地域の医療機関等を対象にアンケートを実施し、当院に対するニーズを把握するとともに、病院見学会や意見交換会を開催して信頼関係を構築し、患者の増加につなげる。 【重点項目】	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に実施した地域のクリニックにアンケートの結果をもとに、クリニックとの関係を深める。(病院見学会の実施) 精神科単科病院へのアンケートの実施 総合病院へのアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 追加のアンケートを実施するとともに、クリニックの医師や社会福祉士等への病院見学会を開催し、連携を図るための関係強化を進めることができた。 精神科単科病院へのアンケートは継続して検討している。 総合病院へのアンケートを実施し(予定)、当院に対するニーズを把握する。 	総合病院へのアンケートをもとに、当院に対するニーズを把握し、連携強化を図る。先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、精神科単科病院へのアンケートの効果的な実施方法を検討する。
	4-5	地域の精神科クリニックの医師等を非常勤医師として雇用する「オープンホスピタル*」を導入するなどして連携を図り、入院患者増に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 近隣クリニック医師1名が、火曜日に月3回2時間、初診担当医師として対応。 クリニックアンケートからオープンホスピタルに興味のある医師を発掘する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり、近隣クリニック医師1名が、火曜日に月3回2時間、初診担当医師として対応した。 クリニックアンケートからオープンホスピタルに興味のある医師の発掘に務めた。 	引き続きオープンホスピタルの拡大を目指して、人材の発掘に努める。
基本方針5	5-1	mECTやクロザピン治療など、先進的な医療を実施している当院の診療実績を積極的に周知して入院患者増に努める。 【重点項目】	精神科の単科病院へのアンケート実施に合わせ当センターの先進的な医療を周知する。	クリニックへのアンケート実施や、説明会に合わせ当センターの先進的な医療を周知した。(精神科単科病院へのアンケート実施は引き続き検討)	先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、精神科単科病院へのアンケートの効果的な実施方法を検討する。
	5-2	依存症治療等、潜在的な医療需要に応えることを検討する。	総合病院へのアンケートを通して、アルコール性肝炎患者であるアルコール依存症患者の潜在需要を確認する方策を検討する。	総合病院へのアンケートを実施し(予定)、当院に対するニーズを把握する。	総合病院へのアンケートを分析して、潜在需要を確認していく。
	5-3	ベッドコントロール会議を更に充実させ、保護室の有効活用と病棟内の連携により、病床をスムーズに運用させる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のベッドコントロール会議で、当直師長からの報告、病棟からの報告、地域連携室からの報告により、入院依頼の状況、退院の状況を確認し、保護室の使用状況共通認識を持つことにより、病棟間の連携を図る。 ベッドコントロール会議で、週1回、各病棟に入っている20歳未満の患者について、東1病棟への転棟可能性について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のベッドコントロール会議で、当直師長からの報告、病棟からの報告、地域連携室からの報告により、入院依頼の状況、退院の状況を確認し、保護室の使用状況共通認識を持つことにより、病棟間の連携を図った結果、救急患者の受け入れがスムーズに行えるようになった。 ベッドコントロール会議で、週1回、各病棟に入っている20歳未満の患者について、東1病棟への転棟可能性について検討した結果、東1病棟の病床利用率が改善した。 	引き続き、ベッドコントロール会議等により、保護室の有効活用と病棟内の連携による病床のスムーズな運用に努める。